

第9回 福知山市新文化ホール整備基本構想・基本計画検討委員会

会議録【概要版】

【日時】 令和5年5月25日（木）14:00~16:00

【場所】 福知山市厚生会館 中会場

【出席者】（委員）11名 欠席2名（伊東委員、夜久委員）

（事務局）地域振興部 森田理事

文化・スポーツ振興課 井上課長 西村課長補佐

中井主査 阪本主事

シアターワークショップ 石井、真木（オンライン）

（関係課）建築住宅課 中川次長

都市・交通課 芦田担当課長

1 開会

2 開会挨拶

3 協議事項

（1）類似規模施設の事例について

（2）前回委員会のまとめと質問事項の確認

（3）新文化ホール基本計画（案）

4 その他

5 閉会

【議事】

（1）類似規模施設の事例について

○シアターワークショップより説明

委員：人口規模を教えてください

事務局：小美玉市は5万人弱規模、人口規模が小さい自治体。

（2）前回委員会のまとめと質問事項の確認

（3）新文化ホール基本計画（案）

○事務局より説明

事務局：目次の「基本理念」のページ数を「2ページ」に修正いただきたい。また、資料編の4ページ、委員名簿について、桐村委員の所属団体を「福知山市合唱連盟副理事」から「福知山市合唱連盟副理事長」に修正をお願いする。

- 委員 : 15 ページ、「若い世代が中心となって」について、新しい文化ホールは、若い世代だけでなく全ての世代にとって様々な体験を共有する場ではないか。多世代が中心となれば良いのではないか。若い世代が中心になるということに強い意向があるのか。
- 事務局 : この記載は構想の内容に基づいていた。先日、文化関係の会議に出席した際にも、若い世代の育成が切望されていることを感じた。ホールでのクラシック、演劇、全国的な傾向として高齢化が進んでいる。今後のホールのあり方として若い世代も中心となることが求められるのではないかという考えから記載を残している。
- 委員 : 創作室の事例について、提示された事例だけ見ても判断が難しい。今回の文化ホールに必要な施設なのかということが分からない。絵画等で水を利用する団体に話をきいたが、水場が必ずしもなくても問題がないという話だった。この場所に建て替える方針で、重ね使いの考え方からも、創作室を単体の諸室として整備する必要はないのではないかと感じている。
- 委員 : 同意見である。交流プラザにアトリエがある。三段池の地下に工芸が可能な設備もある。創作室は市内に別の会場があるため、今回の文化ホールには必要ない。
- 委員長 : 若い世代が中心に、ということは、基本構想の管理運営の関係で、記載している。検討を重ねていくなかで内容が変わっていくことも良いのではないか。当初の内容にこだわらずに変えていくことも考えられる。創作室について、基本構想の 22 ページに市内の利用状況が記載されている。それを踏まえると、アトリエは演劇やダンスの利用が多いということが明らかになっている。必ずしも創作室を設けず、演劇やダンスの練習ができる部屋を整備するほうが良いのではないか。
- 4 ページ、表 2 エントランスロビーについて、エントランスロビーに注釈は必要か。注釈をつけるのであれば、公共スペースではなく共用スペースである。ユニバーサルデザインの注釈について、「目指した施設や情報（サイン）のデザイン」とあるが、もう少し幅広い定義の言葉である。内容を再考してほしい。
- 5 ページ、音響反射板の注釈について、「オーケストラなどの生音での音楽利用のとき、舞台上の音を客席まで反射させるために設置する可動の壁や天井のこと」とあるが、客席だけではなく舞台、ホール全体で響かせることが目的であるため、舞台及び客席と書いた方が正確である。
- 6 ページ、表 1 について、搬入ヤードとあるが、11 ページには搬入口とある。搬入口にそろえた方が良い。
- 7 ページ、「幅広い音楽利用に対応するため、室内の音響性能や静寂性にも配慮します」とあるが、必ずしも利用は音楽だけではない。「幅広い利用に対応する」

とした方が良い。

9 ページ、「1 階は主に駐車場としての整備も検討します」とあるが、1 階にもある程度の機能がないと、まちとの関係が築けない。なんらかの機能が必要。災害があった際にも比較的早く復旧が可能な機能に限って整備するという表現の方が良い。まちとどうつながっていくかということが重要。

委員 : 先日、文化協会総会を開催した。加盟は 43 団体。活動ジャンルには華道から水墨画もある。多様な活動が行われている。小規模でも創作活動がある。創作室の文言はできれば残してほしい。交流スペースのアトリエは広すぎる。

委員長 : 前回の基本構想の内容によると、創作関係の利用は多くない。吉田委員の発言にもあったとおり、固定的な設備とすると利用が制限されてしまう。優先度でみると、舞台芸術方面の諸室が求められるのではないか。

委員 : 現状の数字だけみると諸室をもつ必要はないのではないかと思う。水場を利用したい方がいて、場があれば活動が盛んになるという意見も理解できる。保留しても良いのではないかと思う。

委員長 : 基本構想 21 ページ、市民交流プラザ開館前後の地域公民館の利用状況について、交流プラザ開館後にどんな活動が増えたのかをみるために調べている。交流プラザに再編された中央公民館は利用が活発になったといえる。一方で、各地の公民館の利用に変化はない。周辺地域の活動への影響はなかった。

22 ページ、アトリエの稼働率は増えているが、他の利用と比較するとそれほど利用されていない。

23 ページ、アトリエの利用のうち、最も多いのは会議・練習である。クッキンググループはその他利用が多い。

今回の計画の中では創作室は記載しなくても良いのではないか。今まで不足していた利用のための諸室の整備を優先すべきだが、それ以外の利用を制限するという事ではない。今後も継続的に検討していくということではいかか。

委員 : 福知山の人にとって厚生会館は多目的ホールであるという印象が大きい。これまでのホールの印象を払拭してほしい。多目的のイメージから、様々な機能を入れ込もうという意見が多くなっているように思うが、これからのホールに必要な機能を重視してほしい。

委員 : 創作室は水場がある程度の部屋ではないか。あっても良いと思う。私は管楽器奏者だが、水場があった方が管楽器は練習しやすい。重ね使いという話もあったが、創作にも使える部屋がある、ということで良いのではないか。

委員 : 創作室という名称に問題があるように思う。機能を限定した部屋のように感じられてしまう。水場がある部屋は良いと思うが、名称を検討したい。多目的室など。

委員長 : 創作室というと工作等に対応した部屋が連想される。工作台等の設置が求められ、専門的な活動をしようとすればするほど、利用は限定される。

- 委員 : 3 ページにコーディネーターの配置とあるが、後半の管理運営の考え方でコーディネーターという単語が出てこない。
- 17 ページに専門的な人材の配置とあるが、これは舞台スタッフなど技術系の人材ととられる。市民とつなぐコーディネーターが重要であると考えている。15 ページ以降でコーディネーターの配置について記載してほしい。
- 事務局 : いただいたご意見を踏まえ、管理運営の基本的な文言を整理する。基本構想の 27、28 ページに「コーディネーター」の記載がある。その流れを汲んでこのページも書かれている。どのようなかたちになるかは検討するが、コーディネーターについて盛り込む。
- 委員 : 3 ページ、コーディネーターの配置を検討することではなく、活動をつなぐ役割をするということが施設の役割である。その方法として管理運営の考え方でコーディネーターの配置について記載すれば良い。
- 委員長 : 3 ページではコーディネーターの配置と書かず、役割を担うことを記載し、15 ページのところでコーディネーターの配置を検討することを記載する順番の方が良いという意見である。
- 委員 : 15 ページ、「若い世代が中心となって」とあり、「若い世代が活躍できるように」、「若い世代が参加しやすい事業」とある。今後の文化芸術を担うのは若い世代だが、若い世代に関して似たような文言が多い。多世代と言い方を変えた方が良いのではないか。
- 委員 : 事務局へ質問したい。委員会資料の 21 ページ、市民ワークショップの参考について、説明はないのか。
- 事務局 : 諸室、創作室に関して市民意見の確認をしているページである。これまでの市民意見聴取を積み重ねて出てきた意見であったため、その確認のため、改めて参考資料として添付している。他市の事例を先行してご説明したため、参考資料とした。
- 委員 : 各所でヒアリング、市民ワークショップを開催していただいた。検討委員のなかで創作室の話があり、市民の意見を踏まえた過程があるということは確認したいと思った。
- 600 席の事例を出していただいた。600 席でできることをもっと知らなければならない。1,000 席あってもプロがくるとは限らない。コネクションがあることによってプロを呼べることもある。もちろんコネクションよりもお金が必要なこともある。キャパシティが大きいからプロがくるわけではない。
- 福知山の未来を担う子どもたちに負債を残してはならないと思う。みの〜れは本当に多彩な事業を行っている。関わっている人たちをみてほしい。暮らしがどう変わったのか、生き方、まちがどう変わったかが分かる。
- 事務局 : 基本計画を整理するなかで、基本的な考え方で文化芸術と市民をつなぐという考

え方を掲げている。鑑賞事業も求められている。新文化ホールでどんな事業を提供するかを考えなければならない。名古屋大学の清水教授の著書では、公共施設は、公会堂や講演会をすることを目的に作られており、コンサートホールを作ろうとすると、600～800席が妥当であると整理されている。地方都市のホールでは、600規模でオペラなども対応できている。視察等も含めご意見を伺い、検討していきたい。

委員長　：本日の意見を踏まえて再整理し、パブリックコメントにかけることになる。
その後、運営の問題、設計、事業の計画等、次の段階へ進んでいくことになる。

4 その他

次回検討委員会：令和5年7月某日　今後日程調整を行う

場所　　　　　：福知山市厚生会館中会場

5 閉会